

6 子どもたちが地域への愛着を育み、豊岡で世界と出会っている

ふるさと教育、英語教育、演劇的手法によるコミュニケーション教育の三つを柱とする「ローカル&グローバル・コミュニケーション教育」の取組みを進め、世界中からやってくる人々に対し、ツールとしての英語を活用し、自分のまちに誇りを持って、表現力豊かにコミュニケーションをとる子どもたちを育てます。

(1) 子どもたちが豊岡のことをよく知っている

「子どもの野生復帰大作戦」や「生きもの共生の日」の取組みを通して、豊かな自然体験をすることや豊かな発想や命を大切に作る心、さらに“ふるさと豊岡を愛する気持ち”を育んできました。

さらに、自分の将来の生き方を考えるため、先進産業の職業人の講話を聞き、夢の実現を具体化していくキャリア学習などに取り組んでいます。

豊岡にも素晴らしい自然、歴史、伝統、産業などがあります。そのことを学び、楽しむことを通じて、子どもたちの本市への愛着と誇りを育む「ふるさと教育」に取り組んでいます。



▲子ども野生復帰大作戦「いかだづくりキャンプ」

【関連する取組み例】

ア 山陰海岸ジオパークへの認定やラムサール条約に登録される豊かな自然環境を生かし、湿地や田んぼ、川に暮らす生きものなどの命の大切さについて学ぶ「環境学習」を進めており、ふるさとを愛するたくましい子どもたちが育っています。

イ ふるさとを自分の言葉で語り誇れる子どもを育成するため、「ふるさと学習ガイドブック」を作成し、平成29年度（2017年度）からすべての市立小中学校で活用しています。

(2) 子どもたちがさまざまなコミュニティの中で役割を果たしている

但東中学校では、ふるさと豊岡の価値ある産業や文化、自然などについて学んだ成果を、修学旅行における東京アンテナショップの商業体験活動を通じて発信しています。

また、同地域内で行われている「イングリッシュ カフェ」は、英語で自分たちのふるさとを世界に伝えたいという地区の思いで、中学生や高校生が運営の中心的な役割を担い、遊びや日常生活の場面を通して、幼児や小学生に楽しく英語を学べる場をつくっています。

私たちは、地域のさまざまな機会を通して、子どもたちがかけがえのない存在として自らの存在意義を実感できる場——コミュニティを持つことができるように、子どもたちがまちの中でさまざまな役割を持ち、責任を果たすことができる機会を提供していきます。



▲東京アンテナショップでふるさとのPR
(但東中学校生徒)

(3) 子どもたちが豊岡で外国人とのコミュニケーションを楽しんでいる

平成 29 年度（2017 年度）、本市は、すべての小中学校に外国語指導助手を配置し、小学 1 年生から英語の授業を始めました。保育園、幼稚園、認定こども園での英語遊び保育との連続性を持たせ、外国語指導助手と英語に親しむことを通じて英語を身につける機会をつくれます。

また、自分たちで演劇を作り、演じることを通じて、表現力や合意形成能力を身につけ、相互理解ができる力を育てるため、「コミュニケーション教育」を進めます。

これらの取組みを通して、性別や年代などを越えた対等な関係の中で、自分を主張し、また他者を理解できる基礎的なコミュニケーション能力を育成していきます。



▲豊岡市芸術文化参与 平田オリザさんによる授業

【関連する取組み例】

平成 29 年度（2017 年度）から、市内の各保育園、幼稚園、認定こども園で、歌やゲーム、絵本の読み聞かせなどを全て英語で行う「豊岡市英語遊び保育事業」を展開し、外国の言葉や文化に興味を持つようとする気持ちを養っています。